

愛児園 平川保育所

〒753-0841 山口県山口市吉田3050

社会福祉法人吉敷愛児園

事業概要：保育所(定員150名)

職員体制：正規職員19名、常勤職員(非正規)9名、非常勤・パート13名

お話を伺った方：所長 松永雅子さん

※職員体制は令和2年11月1日現在



障害者

「職員の人間性が大事」を実感 障害があっても一緒に働く同志

幼い子どもたちを預かる保育所で、知的障害のある職員の雇用は困難という先入観が職員にありました。しかし時間をかけて仕事に慣れてもらい、職員同士お互いを理解しあうなかで受け入れ、助け合いながら働ける職場づくりにつながりました。

長い時間をかけて丁寧に、職員間の理解と関係構築に取り組む

働く場を求めている障害者を雇用することは、社会福祉法人としての責務であるとの意識から、本法人では平成24年度から受け入れの準備を始めました。しかし、保育現場は常に臨機応変の対応が求められる職場です。幼い子どもたちは思いもよらない行動に出ますし、子どもたちの安全を第一に守る義務が我々にはあります。そのような職場で障害のある職員が働けるだろうか、と保育士の皆が不安に感じていました。

平成25年度に法人として初めて知的障害のある方を保育所職員として採用した際に、園児の保護者の方々への説明をどうすべきか、保育所として思い悩むことになり、大きな壁に直面しました。

悩んだ末に思い至ったのは、「職員一人ひとりが、心を1つに」ということでした。障害者としてではなく、1人の人間として尊重する。受け入れの不安を解消するには、職員同士でしっかり話し合う。こうした小さな積み重ねにより、障害のある職員と一緒に働く同志として受け入れる覚悟ができ、保育所の仕事に意欲的な人材を採用しました。その年の保護者総会で保護者の方々にご理解いただき、障害のある職員を温かく迎えていただきました。

平川保育所では、平成31年4月に、ハローワーク

に相談したり、障害者職業センターの職員や大学の障害児教育の先生から助言を受け、法人内では4人目となる知的障害のある職員を採用しました。

ただし、雇用に至るまでには、長い準備期間を設けました。平成29年度に総合支援学校（山口県における特別支援学校の呼称）から実習生を受け入れましたが、学校の担当者としっかり連携し、その後2年間をかけて本人に現場に慣れてもらいつつ、その間に保育士たちとも関係づくりを進めた結果、保育士たちの信用を得られるようになってきました。





課題があれば丁寧に向き合い、職員間で共有し対応する



臨機応変な対応が求められる保育現場で、知的障害のある職員を受け止められるか、不安ばかりが募るときに心がけたのは、職員間の意識の共有です。**職員間で丁寧に意思疎通を図る。障害特性やその人の個性を理解して、1つひとつの課題に丁寧に向き合い、対応していくことが重要だ**と感じています。

保護者への説明に悩んだとき、障害のある職員の母親から「保護者に伝えてください」との言葉があり、保育士たちからも「保護者に打ち明けて欲しい」という声に後押しされ、保育所の職員が一丸となって、保護者の方々にご理解いただくとの思いを深めました。

障害のある職員が仲間となって2年が経ち、0歳児クラスでおもちゃの消毒や整理などを担当しています。真摯に仕事に向き合う姿を見て、保護者の方々も1人の職員として信頼を寄せています。



総合支援学校や障害者職業センターとの連携が大切

本法人の障害者の雇用については、**公募ではなく、地元**の総合支援学校との連携のなかで進めています。実習生として施設にきていただき、その後も継続して関わっていくなかで、本人には職場や仕事に就いて理解を深めてもらい、保育所としては本人の適性や意欲などを見極めています。学校では卒業後も就職支援を継続していただいたので、保育所としても大いに心強く感じていました。

また、**障害者職業センター**も定期的にフォローしていただきました。障害のある職員・保育所・家族間の多様な関係調整をしながら、保育所の仕事内容や人間関係を踏まえ、具体的な指導や助言を行っていただいたジョブコーチ支援には感謝しています。今後もしっかり連携し、障害のある職員の職場定着をめざしていきます。

